

R2 年 08 月 14 日_本部供養会ご指導（要旨）

一般的には今お盆という事で、テレビ新聞等で帰省に対して話題になっていますけれども、非常に騒いでるなというふうに思います。

そして、コロナが今一番大きな問題かもしれませんが、日中韓の問題も今大きいですし、特に今アメリカと中国の問題は、本当に大変な事態に今なっている。

そして、レバノンでは大きな爆発がありました。ありがとうございますインターナショナルの関係者たちも多いんですね。すぐに宮本（事務局長）に言って連絡するようにと。2, 3日連絡取れなかったんですけども、お陰さまで、家族皆さん無事ですという事を聞いて、ホッと安心致しましたけれども。

本当に世界に目を向ければ、コロナ以外の事でも大変な事が今起きています。

土地の因縁だよというふうに、ずっと私は言い続けておりますけれども、また2つの事例を申し上げて、地面の因縁について理解して頂きたいと思います。

1, 土地の因縁について

妙智會では、職員の健康診断を福利厚生という事でしております。

現在、健診を受けている場所がどうも因縁が深いような気がしたので、私が通う医者、「なんか先生の所でできないの」って言ったら、その医師の所ではできない。だけど紹介はできるよという事で、すぐ近くの所を紹介して頂いて今回から健診する所を変えました。

今までのところは新宿の歌舞伎町のど真ん中だったんですよ。あの問題の。あの問題の出る前に私感じて、替えた方がいい。どうもおかしい。で、今新しくご紹介して頂いた所は、甲州街道挟んで渋谷区の方のクリニックです。ああ、お手配だなんて思いました。土地の因縁で、歌舞伎町の大きな因縁でうちの職員呼ばれてるんだと思って。替えた方がいいって霊界から頂きました。

私は、幹部の連中に言ったんだけど、この土地の因縁怖いんだぞ、って。

会主さまはちゃんと、大導師さまはちゃんと救ってくれてるんじゃないか。その感謝忘れちゃだめだって、強く幹部、そして幹部を通して職員に伝えました。

その後、私案の定と思ったのは、ご存知だと思いますけど、今度来月、コロナ専門病院はうちの本部の歩いて5分の所。そこにコロナ専門病院ができるんです。今ある東海大の所がそうなるんです。ちゃんと因縁がそばに来るんですよ。

で私は、そういう事も全部ひっくるめて、うちの教務担当理事には、今山だぞと言いました。その病院が我々本部のこの本部の目の前ですから。これが因縁なんですね。

うちの幹部だけ、朝、東京の地面の因縁、このコロナに関する（法名を）謹読させてる、お経あげさせてるの。それしたからコロナの因縁がそばに来たんです。そばに来なかったら救えないから、来てるんです。

会主さまが大導師さまがよく言ってました。法名というのは抱えなきゃいけない。逃げちゃいけないんだ。ちゃんと逃げない場所に来ました。最後はうちを頼るしかないから。

私たちの行によっては。じゅうぶんですと、因縁が喜んで成仏するかもしれない。だから僕は、今は山だって言ってる。ですから、こう山の時にあんまり騒いじゃいけないんです。全部順序しました。全部私が順序して法名つけました。

2、法名について

人間におつけする法名、ご先祖、両親につける法名。

もうひとつは、因縁の法名です。食べ物だったり、いろいろ地面だったり、それが妙智會のふたつの法名です。前も言ったけども、そのふたつをひとつの箱に入れちゃいけないんだよ、と以前指導したとは思いますが。これはまたおさらいですけども、当然のことで、絶対一緒にしちゃいけないですね。

妙智會の開教当初からのしきたりですから。一緒にしたら大変ですよ。かえってかき回されます。

《先祖（人）の法名》

その人の我とか、生きてる時のふるまいとか、願ほどきしてなかったとか、いろんなものがくっついてくるから、なかなか人間の法名の方がつけにくいんですよ。しかし、こちらがちゃんと感謝して亡くなった側も感謝すれば、パッパってこうつけられやすいのが、妙智會の

法名という事を一応お伝えしておきます。知ってらっしゃると思うけど。これが妙智會の法名です。

《因縁の法名》

あともうひとつは因縁の法名です。今日も幹部の人に言ったんですけど。宝蔵は大事です。会主さま大導師さまが残された宝蔵。宝蔵通りというのが大事なんですよ。でも私はその身になって、コロナの法名にしても、東京の地面の法名にしても、東海大付属の病院にしても私はつける前に身体にいろんな事が起きて、こういうことは細かくは言えないんですけど、いろんな事が起きてる中で、基本の部分を見ながら変えていくんです。

これは、会主さまが私に亡くなる前によくおっしゃってたのが「恵司、お前の時にはちゃんと私たちの基本だかど、同じにつけるはずがないんだって。その時その時で因縁が違うんだから、ちゃんとそれを受けてつけなさいよ」と言われているので、私は、えばってるわけじゃなくて、そういうご指導があったので、つけてるわけ。

でもそれをつけるのも、霊界で、感じてるものが来て、感じて苦しんでつけようってなるのが順番なんです、本当は。

皆さんなんか、つけようかなってつけるでしょう。そうじゃないですよ、もう、わかんないと思うけど、なかなかこのへんの部分は。ぶわーってきてつけようとなるんです。その時にはつける項目がわかるんです、だから、全部吸い込むから。これが、私の立場の中での因縁の法名なんです。

今日言いたかったのは、これが妙智會の法名なんです。

3、稲荷（狐）について

昔、私今の研修会館のあそこに宮本家が住んでいたんですよ。

今でも覚えてるのは、一番奥が勉強部屋だったんですよ。で、昼行った時に、狐の足跡が残ってたんですよ。足跡残ってるたって、本当の狐が地面の土の足跡じゃないですよ。しみ込んでるんだもん、狐の足跡が。拭いたってとれませんわね、因縁の足跡だから。

おばあちゃん（会主さま）、なんだろうって、シミかって。会主さまが、いや、目の前の所

の狐が来てるんだっておっしゃって、すぐ（法名）つけようって。今でもつけてます、たまに、心配だから。強い狐なの。

その狐、神社じゃない狐なのに、えらい強いんです。やっぱり先ほどのコロナの病院がここに来るようなもので、集まってくるんですよ。妙智會に救ってもらいたいから、強い因縁の狐が。

この辺は身体で感じなきゃわからないかもしれないけど、すごいんです。だからこの辺のあたりの狐は屋敷稲荷でも気をつけないと深いんですね。だから、何度も言うように、東海大も深いんです、あの辺の屋敷稲荷は。今度見に行つてあげようと思つてるんだけど、コロナの病院になる前に。そういうのを地面の中の狐つて種々の狐つて入れたかな。入つてるんだろうけども。そうやって感じるから。そういうのが妙智會の因縁の法名なんです。

なので皆さん、どうも算数みたいに、方程式みたいに考えてるから順序つかないので。皆さんはそこまでの責任ないんだから、素直に従えばいいのよ、今はこうだつて。

時代が変われば因縁も変わるし全部変わっていくので、それもわからないで、昔はああだつたこうだつたつて、会主さまは昔はこうだつたなんて一切生前中おっしゃってないですよ。当たり前だけどね。今はこうだよつておっしゃつてた。だからとても生きた法名をおつけしてたわけですよ。

ぜひ、幹部に言つたんだけど、今回の東海大も含め、あの辺の土地の因縁そういう意味で深いから、ちゃんとしなきゃダメだぞ、というふうに私は思います。

どうぞ今月、来月と騒ぐような事が身内の中で起きても、堂々としなきゃだめです。騒ぐと因縁が喜ぶんです。何があつてもへこたれない、動じない。動じたら負けますから。

私は私で、しっかりと乗り越えて、修行していきますので、ぜひ皆さんも各自でのご修行をしっかりとお願い致します。

ありがとうございました。